

# 暮らし安心、いのちを支えるあたたかい市政に！

## 安心して住める市営住宅へ

空き室だらけの市営住宅、雑草が繁茂して環境の悪化も。なぜ、こんなことになったのでしょうか。

半数が築40年以上たっているのに改修が進まない上、除草や剪定は年1回しか行わないからです。「広くて手が回らない」といいますが、実際は委託事業に予算を使いたくないだけです。

名目賃金が上がっているのに入居所得基準は15年前に引き下げてから変わらず、基準オーバーで入居者は退去し、入りたい人が入れない状況になっています。入居者を減らすのが目的の運営としか思えません。

単身の高齢者や母子家庭は希望が多く、抽選で外れる人が出ています。高齢者も子育て中の人も安心して住めるよう、エレベーター設置や適切な除草などの環境整備を行うべきです。また、希望者の多い入居枠の拡大と入居基準の弾力的運用で、せっかくの市営住宅を「希望者が安心して入れる住宅に」と、要望しました。

## いのちを守る地域農業に

食糧も、飼料も。肥料も輸入に頼っている日本では、ひとたび混乱が起きれば国民が飢え死にする心配があります。地域農業を守っていくことは、暮らしと命を守る大切な課題です。

## 保険証の存続を!! カード紐づけた人も解除できます

健康保険証の新規発行が中止となりましたが、現在の保険証は最長1年間、有効期限まで利用できます。マイナンバーと紐づけしない人には有効期限が切れる前に、保険証とそっくりな「資格確認書」が送られてきますのであわてることはありません。紐づけた人はこの確認書がないので、マイナンバーカードを使うことになります。カードを持ち歩くのは心配、トラブルが不安という人は、紐づけをやめることができます。国保の人は市の窓口へ、健康保険は保険者へ。郵送でも受けつけています。もらったポイントは返す必要はありません。

デメリットばかりでメリットの無いマイナ保険証の強制をやめさせ、保険証を存続させましょう。「現行の保険証を残してください署名」を集めています。ぜひ、ご協力ください。

## 2025年新春 今年も全力で頑張ります



年末に開かれた女性後援会総会で  
市政報告と新たな決意を語る市議団

伊勢崎市の農家は10年間で943戸減少しました。一方で、新たに農業に就いた人は2021年に44人、22年に36人いましたが、コロナが落ち着き他産業の求人が増えた23年は16人に減りました。市の推計では、これからは毎年10人程度になるといわれています。ますます遊休農地が増えてしまいます。就農者を増やすには、農業で家族と暮らしていける収入が必要で、せつかく農政部をつくりながら目に見える農業施策の進展はなく、予算も毎年減らし続けています。魅力ある農業にするために、市政の1・6%しかない農業関係の予算を増やし、地域農業の振興を図るよう求めました。

## 核兵器も戦争もない世界を

核兵器も戦争もない世界の実現を訴えてきた日本被団協が、ノーベル平和賞を受賞しました。被爆者の体験を通して人類の危機を救おうと立ち上がり、国連の核兵器禁止条約制定に実を結びました。しかし唯一の戦争被爆国日本の政府はこの条約に背を向けたままです。

「日本政府こそ条約に署名・批准し核兵器禁止の立場に立つよう、議会として国に意見書をあげて」と平和委員会から請願が出されました。紹介議員として採択を要望しましたが、質疑もなく継続審査となりました。



毎年核兵器廃絶をアピールする平和行進に参加

## ケア労働に支援を

介護・医療などのケア労働は他の産業と比べ賃金が低く、報酬改定しても賃上げは2%でした。過酷な労働と低賃金でさらに人手不足になっている現状の改善を国に求める意見書請願を、群馬県医療労働組合連合会が出しました。

党議員団は紹介議員として、コロナ下でも命を守るために懸命に働いたケア労働者の生活を守るために報酬の臨時改定などを含め安心して働ける環境をつくるよう、意見書の提出を主張しました。

しかし、これも継続審査でした。「国にモノを言うのは議会の役割ではない」というような、大変残念な対応です。